

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

18

4. 交付金の活用状況



令和2年度（交付済：5億円【そのうち4億円を令和3年度に繰越】）

令和3年度（交付済：2億円）

目的	交付年度	使途	金額 (単位:億円)	期待される効果
マネジメントの強化と高度専門人材の充実	R2	組織改組の検討支援委託費, 職員向け研修, 広報活動経費 等	0.16	社会のニーズに合致する組織改組 により、企業側の安心感・納得感を得られ「組織」対「組織」による 大型共同研究の獲得増 につなげる。また、学内の研究シーズを見える化し広く企業に広報することが可能となり、 共同研究等の外部資金増 に資する。知的財産マネジメントの高度化を 図り知財収入を増加 させる。大学ブランドイメージ向上を図るとともに、関東圏を担当する専任のファンドレイザーを増員したことにより開拓した企業からの 寄附金収入を増加 させる。これらの取組により、 大学の経営基盤を強化し、教育・研究活動を精力的に推進し、社会への知の還元、社会貢献を行う。
	R3	教員人件費, ファンドレイザー人件費 知財関係業務委託費・人件費 ERM構築事業 等	0.68	
教育研究の価値や既存ネットワーク研究基盤プラットフォームを「収益の価値」に転換	R2	研究設備更新, 職員向け研修 WEBサイト構築経費	0.67	外部からのリモート利用に対応した研究設備の更新は、「人の移動を伴わない」新しい研究環境を構築することになり産学連携の活性化のみならず、我が国のアカデミアにおける基礎研究の在り方に変革をもたらす。また、学内の 研究シーズの見える化により 、さらなる共同研究の推進を図るとともに、 「共育・共創」事業の開発を進める ことにより、大学と地域社会がともに発展することができる。
	R3	研究設備更新, 職員研修 研究者紹介WEBサイト改修 等	1.12	
ビジネスに直結している医療系活動を強化した「収益の増強」を推進	R2	教員(PM)人件費, 職員人件費 クラブスペース設備整備費 等	0.15	本事業費で整備した 高度研究支援人材、オープンラボ、先端設備等を活用により、産学共創収入や民間等の研究資金を獲得 する。これにより国民の健康寿命延伸につながる 次世代研究に重点的に再投資し、イノベーション・エコシステムを構築 する。 ・BIZEN (Busines Innovation Zone for Entrepreneurship)プロジェクトや整備したゲノム解析設備利用により、民間資金（ラボ賃料、研究マネジメント料）及び競争的資金の獲得を加速する。 ・医療情報を活用した共同研究費・データセット料、希少価値の高い検体の分譲収入を獲得する。 ・エンゲージメントを基とする寄附制度（Club150会員）を発展させる。 ・デジタル田園健康特区（岡山県吉備中央町・茅野市・加賀市）に積極的に関与し、民間研究資金の獲得から地域課題の解決を図る。
	R3	企業ラボ改修工事・設備費 事業推進人件費, 研究設備更新 医療データ閲覧システム 等	4.03	
出遅れているスタートアップやベンチャーとの協働活動の「流れ」をつくり「収益の芽」を育てる	R2	プレスリリース作成委託費, 講師等謝金 等	0.02	大学発ベンチャー企業を創出する環境整備、風土が醸成されることに伴い、 大学の有する人的資源と研究シーズを用いて社会課題を解決する機会が増加 する。さらに、金融機関、VCなど投資家との接点機会の拡大により、資金供給先の多様性の観点からも起業をサポートでき、 大学発ベンチャー企業を通じた持続的な外部資金獲得が可能 になる。
	R3	ベンチャー発掘支援, アントレプレナーシップ醸成事業 等	0.17	

5. 大学収入の状況



<民間資金獲得額>

令和3年度フォローアップ調書提出時 (単位: 億円)

費目名	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度計画
取組2: 産学連携による間接経費収入	0.82	1.10	<1.16> 1.17
取組4: 寄附金収入	0.48	0.79	<0.80> 1.00
取組3: 特許収入	0.13	0.27	<0.13> 0.27
取組7: 研究機器産学利用収入	0	0	<0.50> 0.30
取組8: 医療系(診療報酬外)収入	0	0.78	<1.15> 1.59
取組5: その他収入	0.02	0.02	<0.30> 0.15
民間資金獲得額 ※取組による獲得額	1.45	2.96	<4.04> 4.48

取組2による民間からの共同研究収入について	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度計画
総額	4.40	5.01	5.08
直接経費	3.58	3.91	3.91
間接経費	0.82	1.10	1.17

<斜体> は申請時に提示した当初の計画金額であって、令和3年度フォローアップ調書にて正体の金額に変更。

実績

(単位: 億円)

費目名	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
取組2: 産学連携による間接経費収入	0.82	1.10	1.18
取組4: 寄附金収入	0.48	0.79	1.50
取組3: 特許収入	0.13	0.27	0.40
取組7: 研究機器産学利用収入	0	0	0.06
取組8: 医療系(診療報酬外)収入	0	0.78	2.52
取組5: その他収入	0.02	0.02	0.52
民間資金獲得額 ※取組による獲得額	1.45	2.96	6.18

取組2による民間からの共同研究収入について	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
総額	4.40	5.01	4.83
直接経費	3.58	3.91	3.66
間接経費	0.82	1.10	1.18

<民間資金獲得額(つづき)>

実績及び令和4年度以降の計画

(単位:億円)

費目名	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 計画	増加額 令和4ー令和元	令和5年度 計画	増加額 令和5ー令和元
取組2:産学連携による間接経費収入	0.82	<u>1.10</u>	<u>1.18</u>	<1.23> <u>1.25</u>	0.43	1.29	0.47
取組4:寄附金収入	0.48	<u>0.79</u>	<u>1.50</u>	<1.00> <u>1.20</u>	0.72	1.20	0.72
取組3:特許収入	0.13	<u>0.27</u>	<u>0.40</u>	<0.14> <u>0.28</u>	0.15	0.29	0.16
取組7:研究機器産学利用収入	0	<u>0</u>	<u>0.06</u>	<0.9> <u>0.10</u>	0.10	0.20	0.20
取組8:医療系(診療報酬外)収入	0	<u>0.78</u>	<u>2.52</u>	<3.21> <u>3.34</u>	3.34	3.50	3.50
取組5:その他収入	0.02	<u>0.02</u>	<u>0.52</u>	<0.41> <u>0.61</u>	0.58	0.62	0.60
取組9:デジタル田園国家構想に関する 民間等からの外部資金収入【新規追加】	—	—	—	<0> <u>0.30</u>	0.30	0.50	0.50
民間資金獲得額(全体) ※取組による獲得額	1.45	<u>2.96</u>	<u>6.18</u>	<6.89> <u>7.08</u>	5.63	7.60	6.15

「民間からの共同研究収入」 について	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 計画	増加額 令和4ー令和元	令和5年度 計画	増加額 令和5ー令和元
総額	4.40	5.01	4.83	5.16	0.76	5.32	0.92
直接経費	3.58	3.91	3.66	3.91	0.33	4.03	0.45
間接経費	0.82	1.10	1.18	1.25	0.43	1.29	0.47

注1) 令和4年度計画において、<斜体> は申請時に提示した当初の計画金額、正体は現時点での計画金額を示す。

注2) 令和2、3年度においては、(実績額>計画額)は青文字、(実績額<計画額)は赤文字で示す。

注3) 令和4年度においては、(現在の計画額>当初の計画額)は青文字、(現在の計画額<当初の計画額)は赤文字で示す。

本事業の実施効果(※)は令和2～5年度累計で **18.02億円** の見込み。

(※R元年度を基準(=0)とした事業の効果額 R2分:1.51億円、R3分:4.73億円、R4分:5.63億円、R5分:6.15億円)

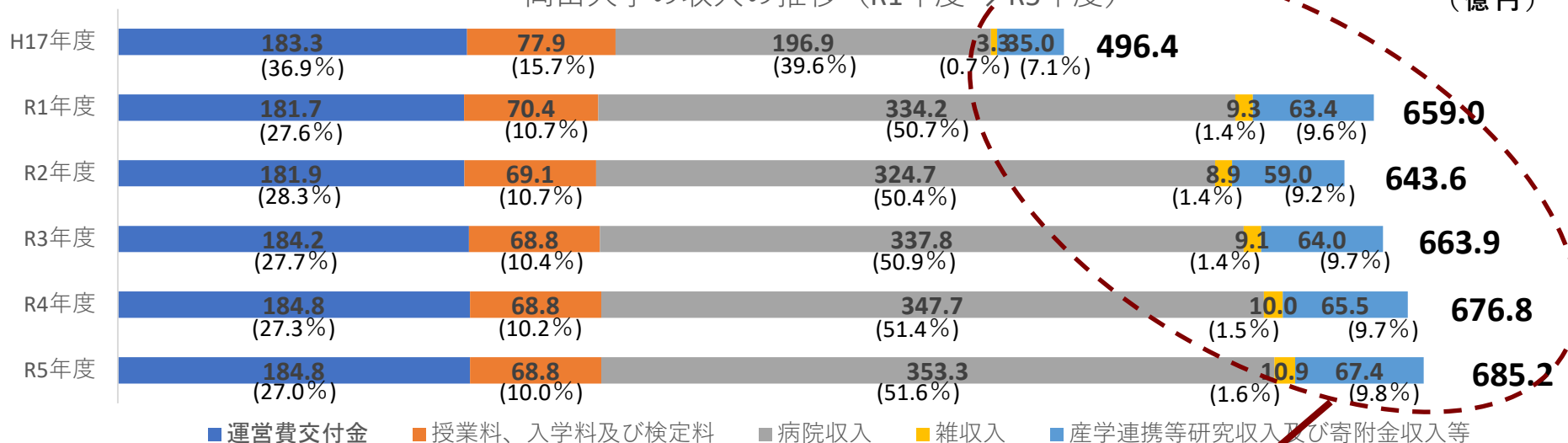
5. 大学収入の状況



<実績及び変更後計画に基づく大学収入の見込み>

岡山大学の収入の推移（R1年度 → R5年度）

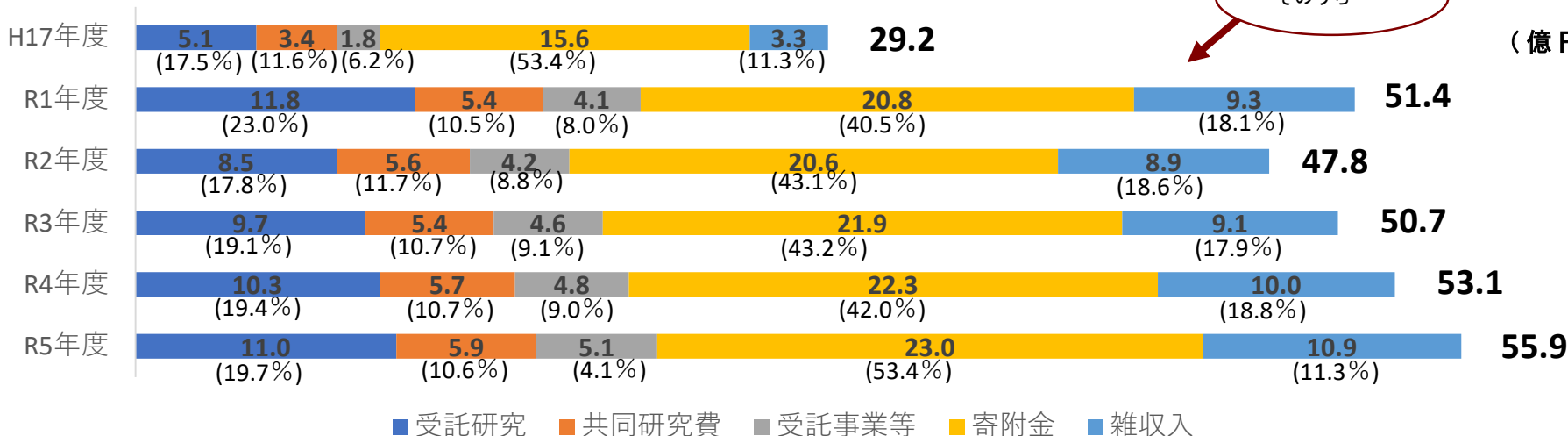
（億円）



岡山大学における民間からの外部資金収入の推移（R1年度 → R5年度）

そのうち・・・

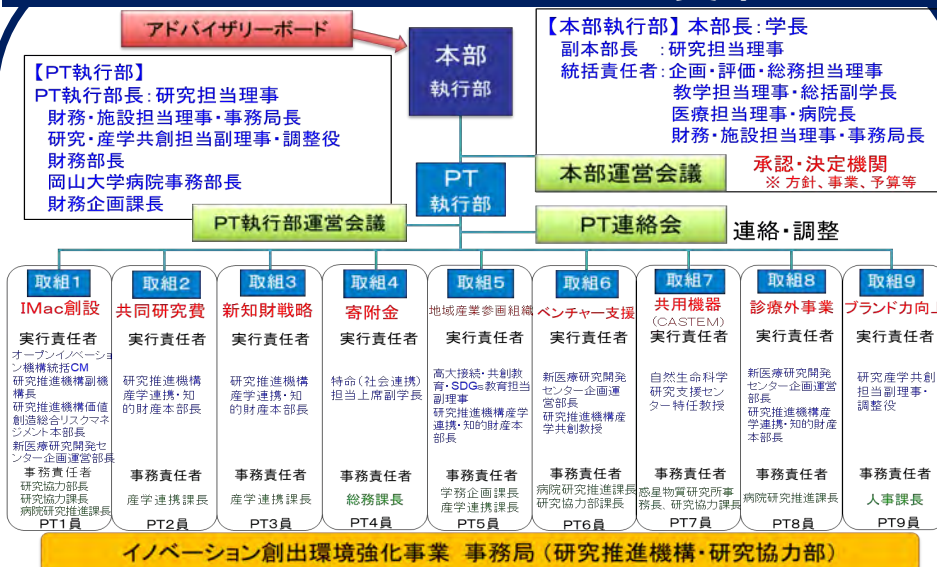
（億円）



6. その他（政策的効果、特筆すべき効果）



ウォーターフォール型手法から アジャイル型手法への変革



【令和2～3年度】

- ・学長をTOPとするガバナンス体制を構築し、事業を強力に推進。
- ・職種や所属を超え、ミッションに対し様々な関係者が参画するアジャイル型手法が学内へ浸透。教職協働の成功事例。
- ・IMaCもアジャイル型手法で創設し、効果を発揮。

【令和4年度以降】

- ・IMaC等の成功事例を踏まえ、アジャイル型手法を用いて、大学経営の戦略・戦術を企画・立案・実動する学長直下の指揮調整組織「**価値創造ナレッジマネジメントオフィス**」の創設を構想中。
- ・業務プロセスが明らかな案件は、従来型のウォーターフォール型手法、挑戦的な事業や複雑性が高くトライ&エラーを繰り返しながら改善を積み進める案件はアジャイル型手法を用いる。
- ・両方の手法を用いるハイブリッド方式にて、組織改革を加速。

研究成果の社会実装に伴う収入を、新たな研究成果の創出に繋げるイノベーションエコシステムの定着

- ・IMaCが各取組を先導し、イノベーション創出を推進。
- ・研究成果の社会実装により、民間からの投資を呼び込み、強みの分野や次世代研究拠点に再投資し、更なる研究成果の創出に繋げるイノベーション・エコシステムが全学的に定着している。
- ・強みの分野をさらに強く、次世代研究拠点を育成するために、先端研究設備を自己調達し先行投資を実施。

